

髪種類

たゆまじきすちとたのみしたまかづら思の外にかけはなれぬる

〔源氏物語湖月抄十五〕九尺よばかり細〇細 九尺あまりばかりと讀也昔はきぬのたけ九尺

也、さればかづらも九尺にする也、

〔當世かもじ雛形序〕實や女は髪のためでたからばこそ人のめだつべかめれ〇中 まさきのかづら
長かもじ、絶せぬ、髪の商品を筆に寫して、女の一助ともなれかしとまかいふ、

安永八年つちのとの亥の春〇中

つりはけ以下同 かつら かたびん まへかみ 中つりはけ けしほん 中かもじ び
んみの 長かもじ いれづと びんづら びんはり さしつと いかたかもじ

〔女中作法之書〕一常のかもじに上中下の尺あり、根は小枕にかもじを縫付たるもの也、地髪短き
女中方用ひらる、よしなり、上は長さ四尺八寸、中は三尺八寸、下は二尺八寸也、これは長かもじ
にてはなし、ねまきかもじのふときものなり、根まきかもじといふは、かみの根を巻たるゆへ申
也、長さ二尺計の物なり、

〔婚禮道具諸器形寸法書地〕長髪文字 五尺五寸、又ハ五尺ノモ有、

〔女諸禮集二〕女中方通の次第

一かよひすべき事、かみはさげがみかもじ、上は四尺八寸のかもじ也、中は三尺八寸なり、下は二
尺八寸なり、小上らうは二尺もくるしからず、

〔歷世女裝考四〕貞享年中女の頭に飾物十六品

貞享五年京板口 盛衰記三卷 今の女、むかしなかつた事どもを仕出して、身をたしなむ物の道具
數々なり、首筋より上ばかりに入用の物十六品あり、〇中 長かもじ、小まくら〇中 あらましさへ

此通ぞかし、